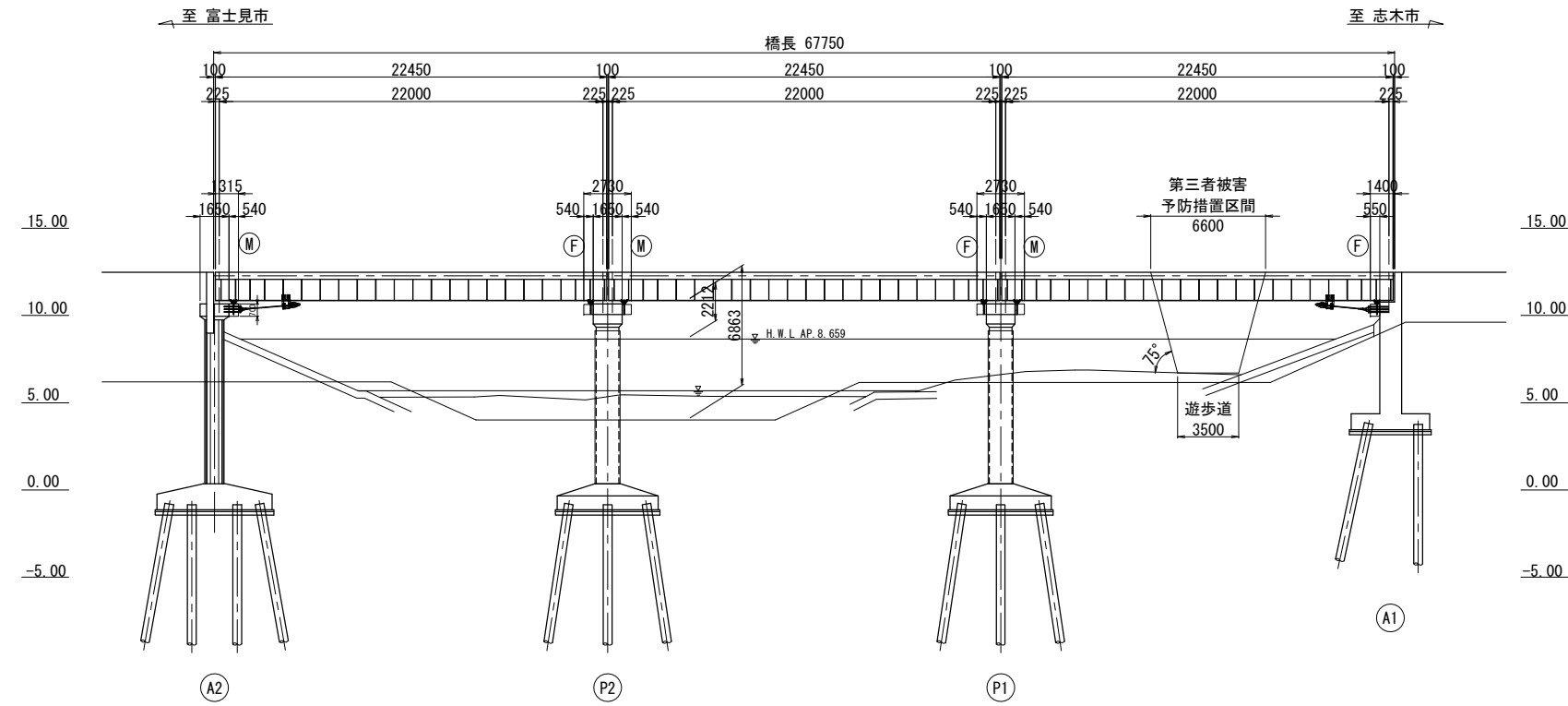
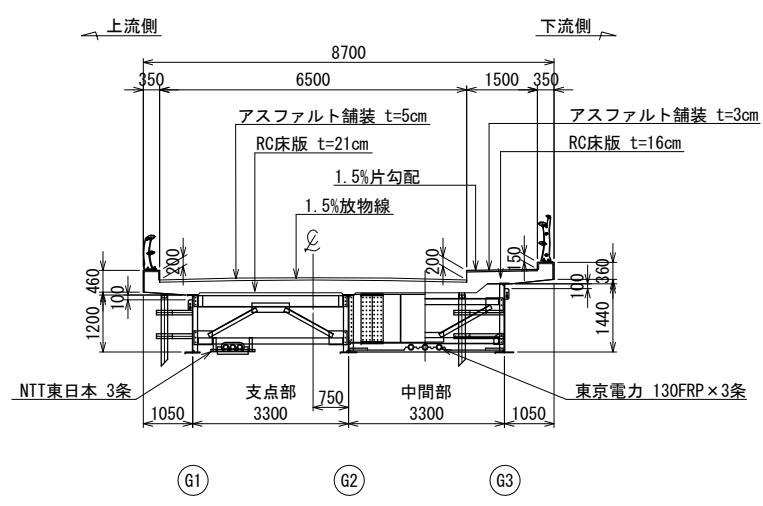


橋 梁 一 般 図

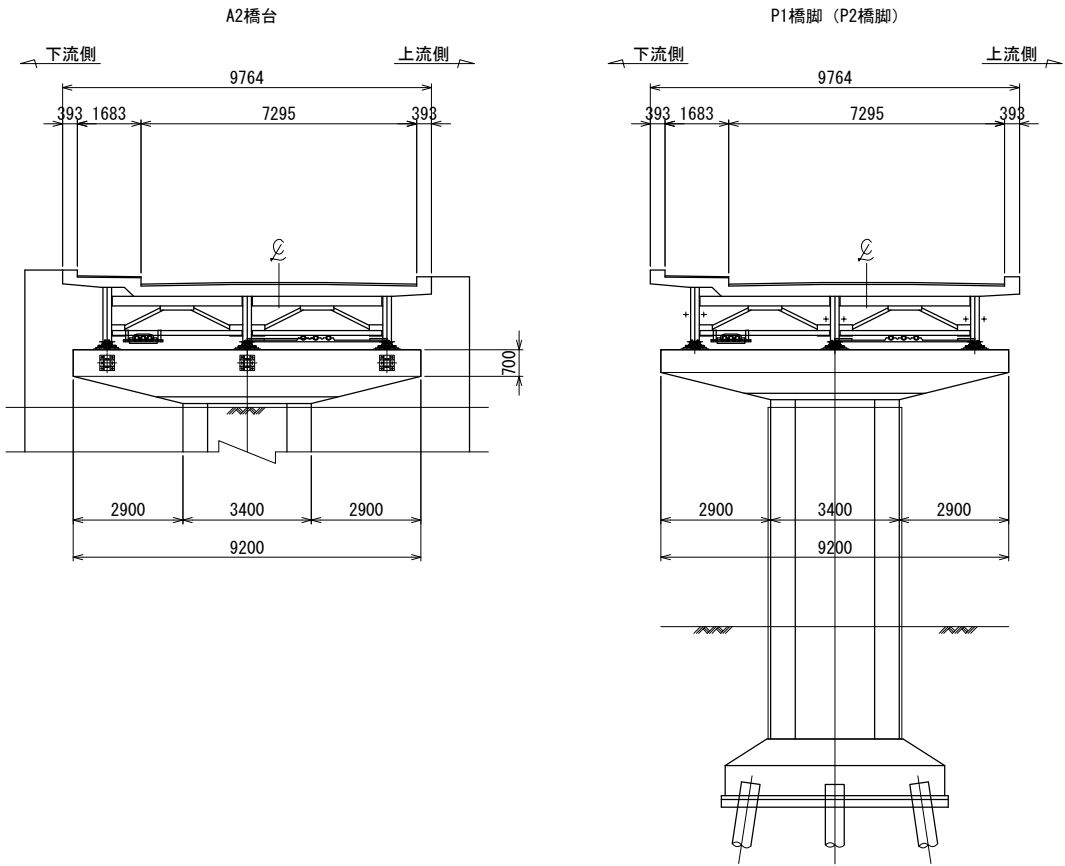
側 面 図 S=1:200



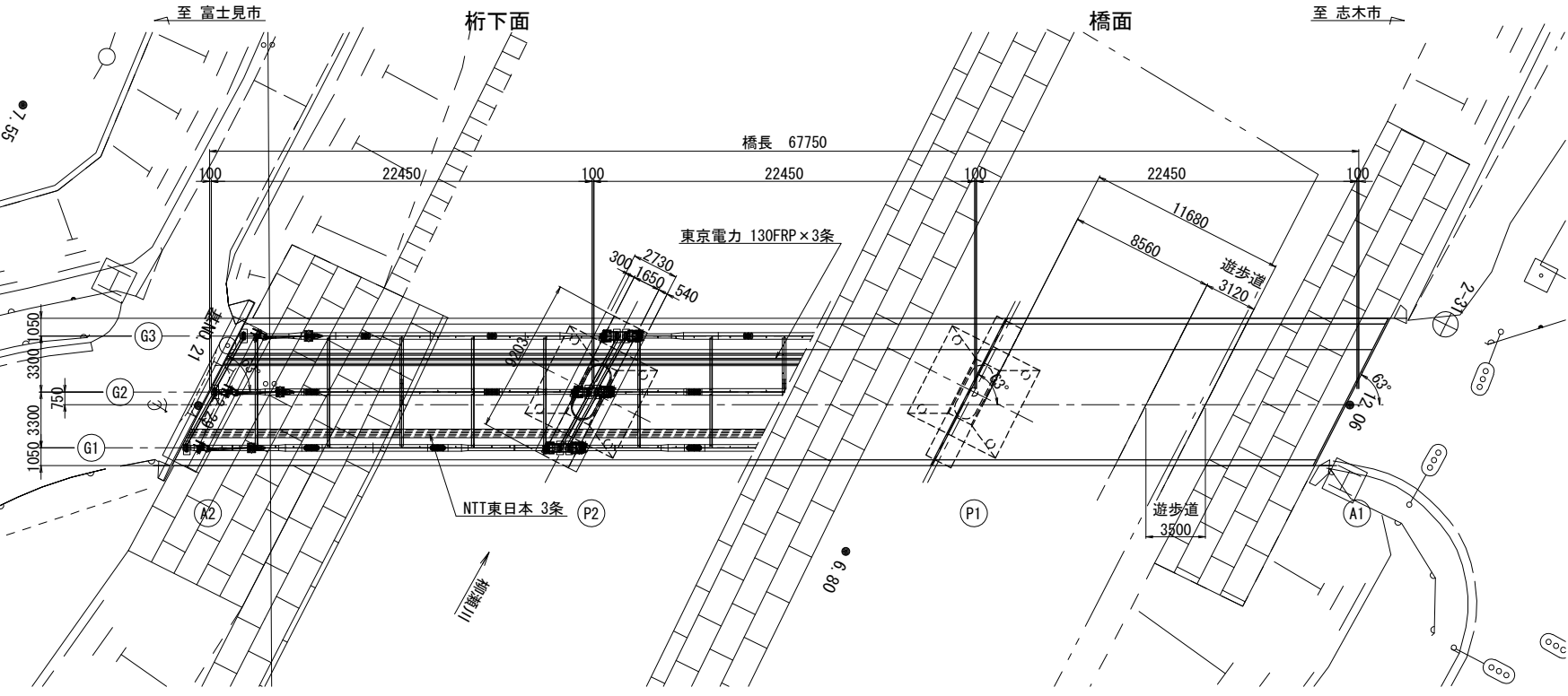
標準断面図 S=1:80



下部工断面図 S=1:200



平 面 図 S=1:200

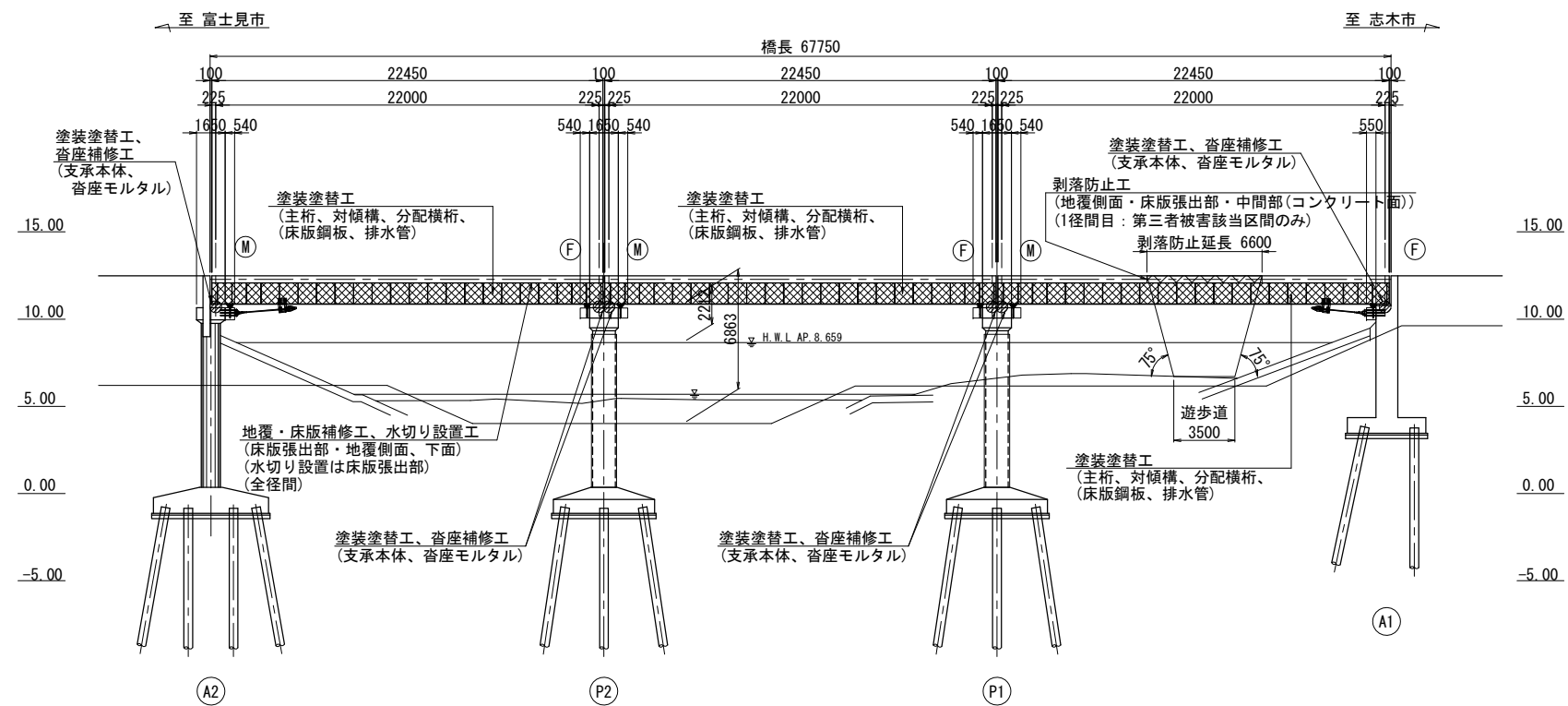


注記)
1. 本図面は、過年度の設計及び工事の成果より想定して作成している。施工にあたっては、現地を確認し、必要に応じて寸法計測を実施すること。
2. 支点条件および計画高水位は、過年度設計業務で推定した内容を記載している。
3. A1-P1径間桁下の遊歩道の位置、寸法は、施工前に、現地にて現地状況及び寸法の確認を行うこと。

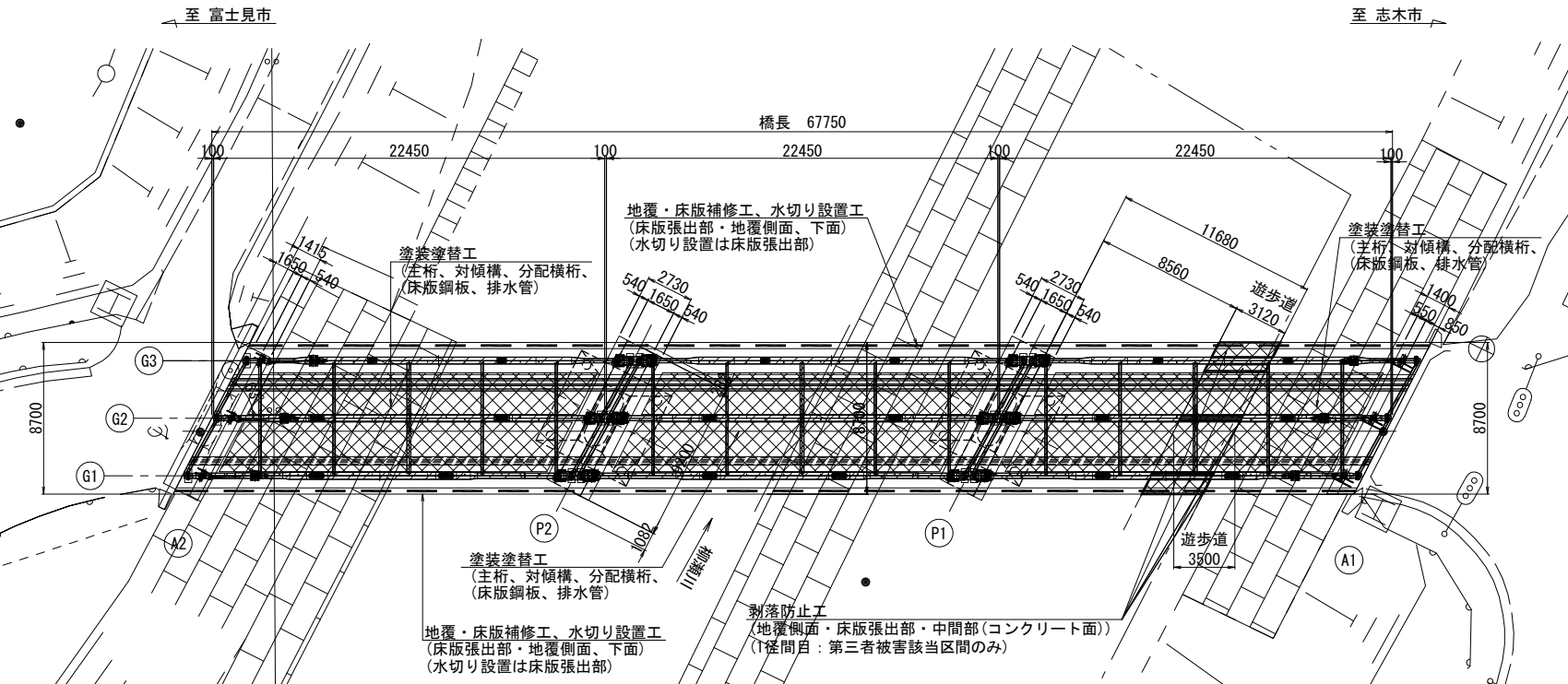
〈富士見橋〉	
工事名	富士見橋補修工事
図面名	橋 梁 一 般 図
作成年月日	令和 7 年 8 月
縮尺	図 示 図面番号 1 / 10
事業者名	志 木 市

補修一般図

側面図 S=1:200



平面図 S=1:200

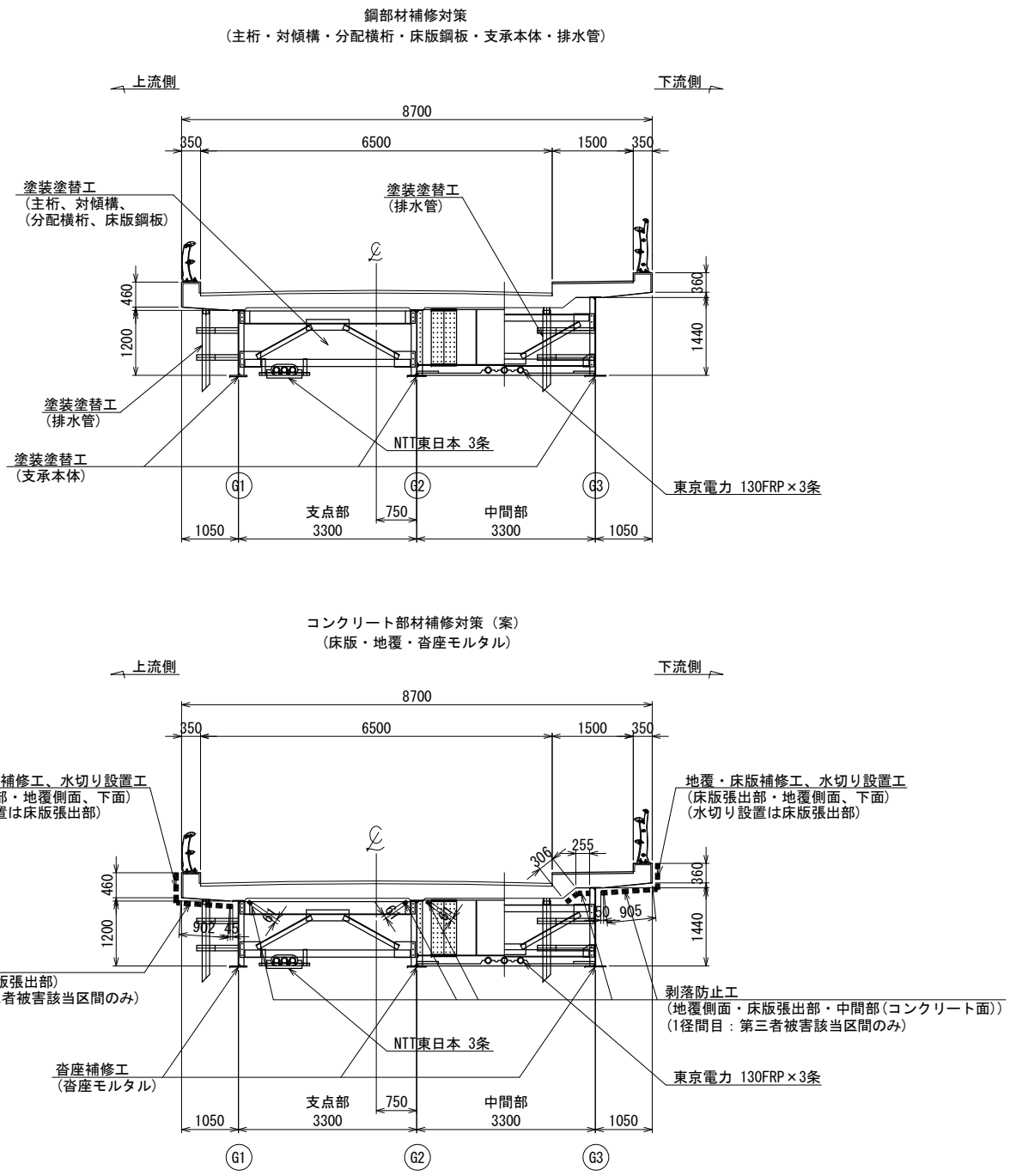


補修工種一覧表

補修工種	適用箇所
塗装塗替工	主桁、対傾構、横桁、床版鋼板、支承本体、排水管
地覆・床版補修工	床版張出部、地覆下面、地覆外側
沓座補修工	沓座モルタル
剥落防止工	床版張出部・中間部(コンクリート面) (A1-P1径間) 地覆下面、地覆外側 (A1-P1径間) ※第三者被害予防措置該当区間のみ
水切り設置工	床版張出部

※剥落防止工は、志木市側の径間 (A1-P1径間) の遊歩道が設置されている範囲のみ行う。

標準断面図 S=1:60

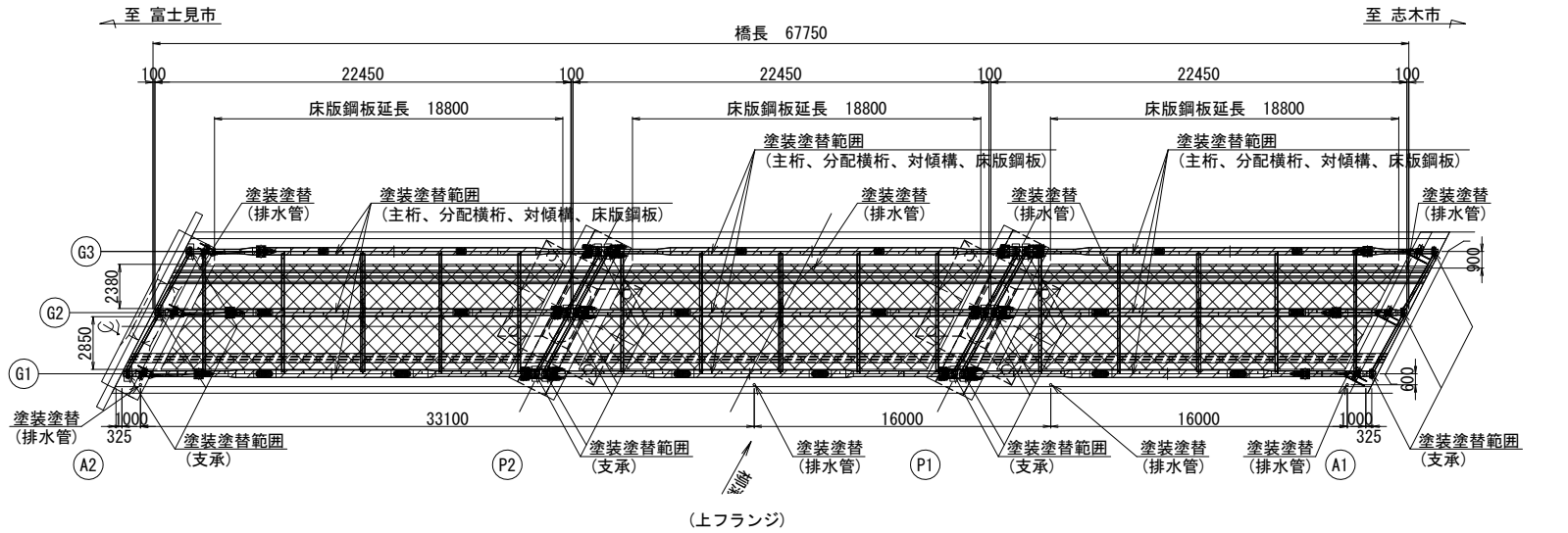


- 注記)
1. 施工にあたっては、現地を確認し、必要に応じて寸法計測を実施すること。
 2. 支点条件および計画高水位は、過年度設計業務で推定した内容を記載している。
 3. A1-P1径間桁下の遊歩道の位置、寸法は、現地にて現地状況及び寸法の確認を行うこと。

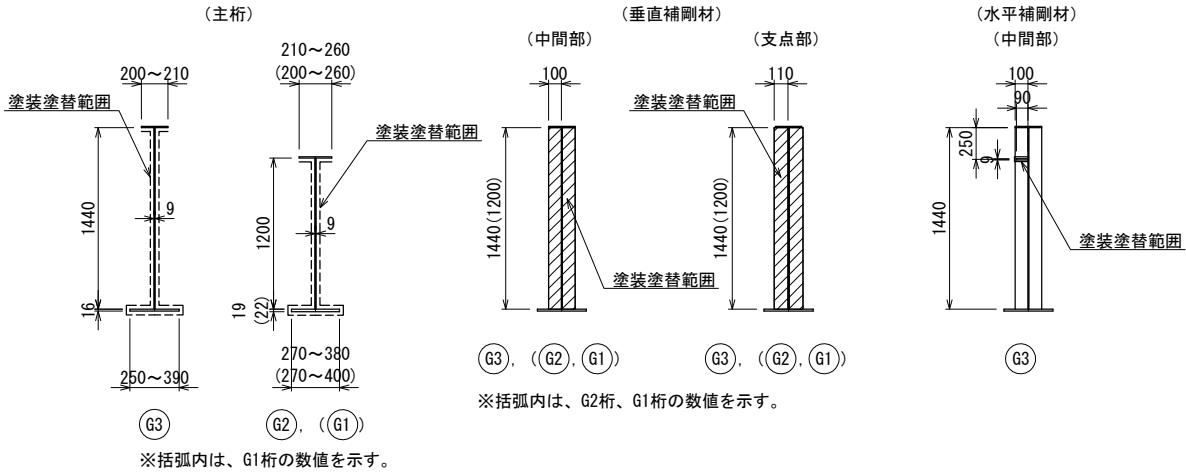
「富士見橋」	
工事名	富士見橋補修工事
図面名	補修一般図
作成年月日	令和 7 年 8 月
縮尺	図示 図面番号 2 / 10
事業者名	志 木 市

塗装塗替図（その1）

平 面 図 S=1:200



鋼材詳細図 S=1:30



塗装塗替工数量表

(1式当り)

項目	規 格	単位	数 量	備 考
素地調整工	1種素地調整(循環式プラスト工法同等)	m2	1292.7	
塗装塗替工	鋳転換型防食塗装	m2	767.4	主桁
		m2	67.2	端対傾構
		m2	110.4	中間対傾構
		m2	57.6	分配横桁
		m2	279.6	床版(鋼板)
		m2	6.5	排水管
		m2	4.0	支承本体
		m2	1292.7	塗装塗替え工合計

塗装仕様 鋳転換型防食塗装

塗装工程	塗 料 名	標準使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	1種素地調整(循環式プラスト工法同等)	-	4時間以内
脱脂洗浄	塗装前処理、脱脂洗浄剤	50	
下塗り	鋳転換型特殊エポキシ樹脂系下塗り	250	1日～10日
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗り	170	
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗り	140	

①仕様評価
※鋼道路橋防食便覧に則り公的機関（第三者機関）の手による（試験片作成～評価まで）
耐久性が明らかな他の防食法（従来工法）との比較試験（例：複合サイクル及びCASS試験）
の報告書を提出すること。
◎鋼道路橋防食便覧参照（I-16(1)）
※黒錆転換を証明する事の出来る書面を提出すること。

注記）

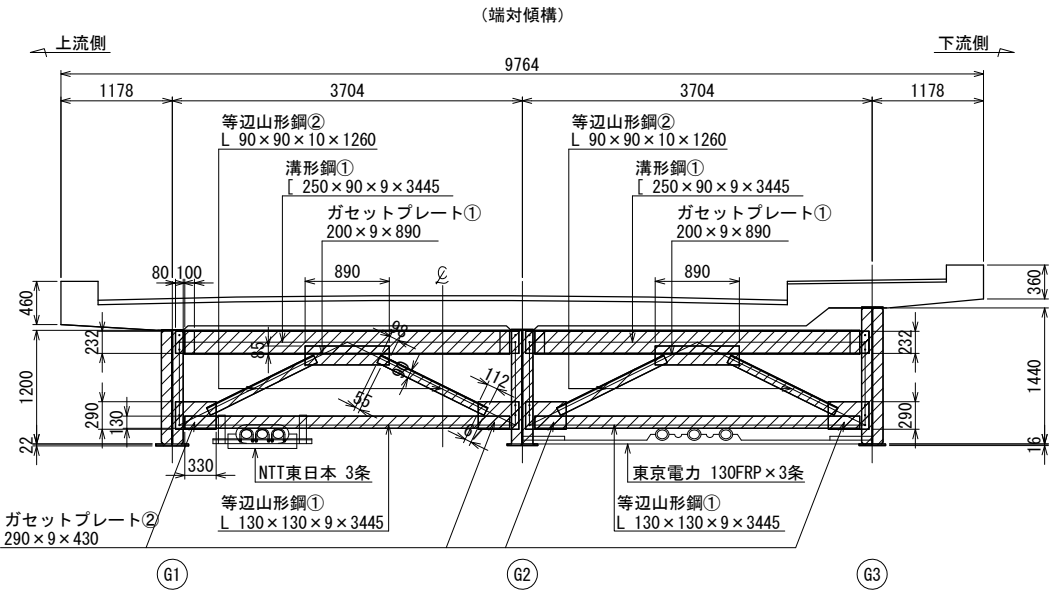
1. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
2. 本設計では鋳転換型防食塗装（NETIS:CG-170003-VR）を想定しているが、同等品以上の性能であれば監督員と協議の上、施工承諾できるものとする。
3. 旧塗膜に基準値を超える有害物質（鉛、PCB）が含まれているため、塗膜かき落しの際は、旧塗膜の飛散防止、作業員への安全対策を施した上で施工を行うこと。
4. 部材角部は、面取りが行われていない場合は、半径2R以上の曲面仕上げを行うこと。
5. 死膜が残存しないように充分素地調整を実施した上で塗装すること。添接部、支承部は特に念入りに施工を行うこと。

〈富士見橋〉

工事名	富士見橋補修工事		
図面名	塗装塗替図（その1）		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	3 / 10
事業者名	志 木 市		

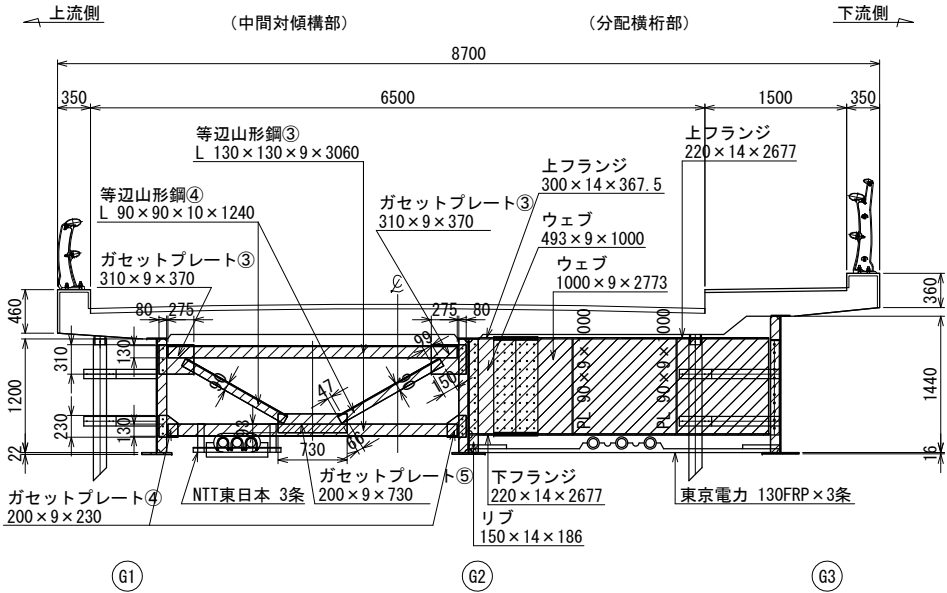
塗装塗替図（その2）

断面図 S=1:40

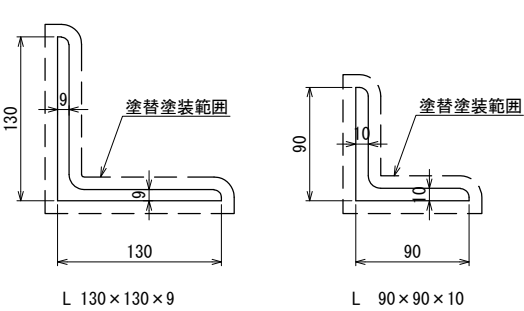


※寸法は、斜角を考慮した数値を示す。

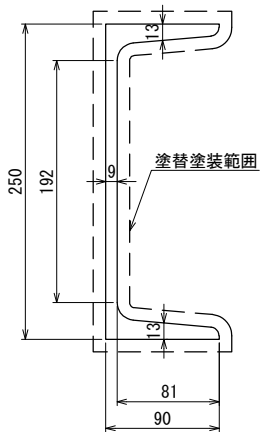
(中間対傾構、分配横桁)



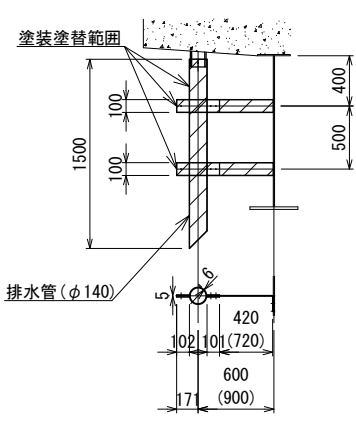
等辺山型鋼詳細図 S=1:3



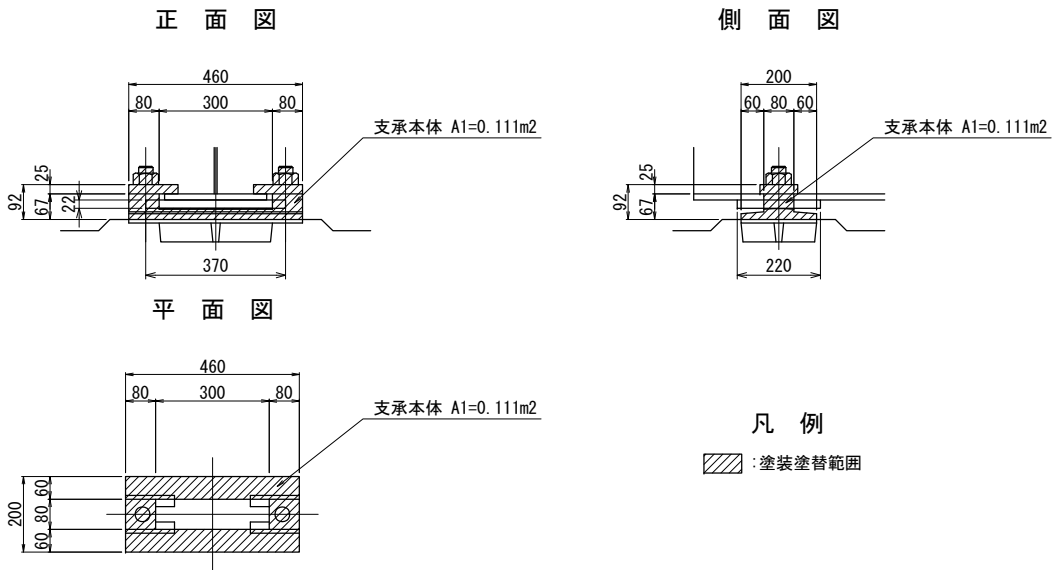
溝型鋼詳細図 S=1:3



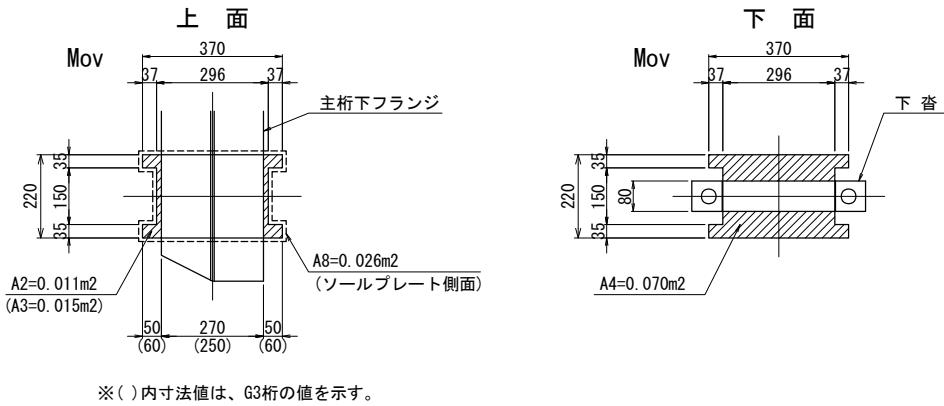
排水管詳細図 S=1:30



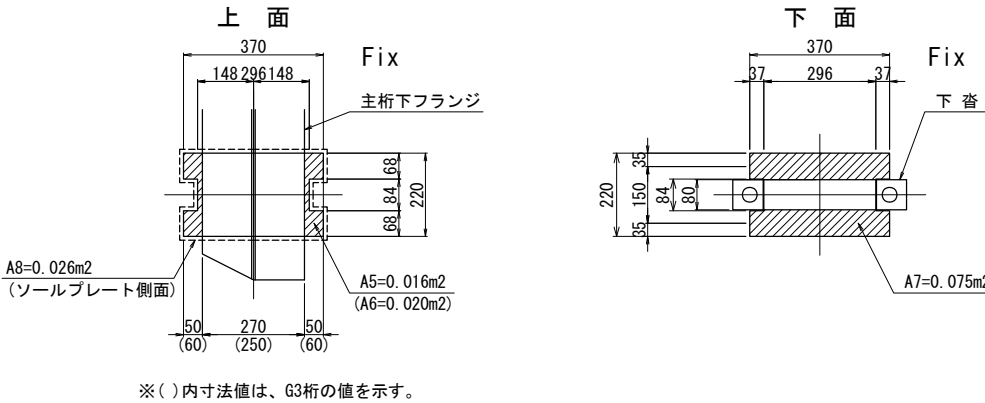
支承詳細図 S=1:10



ソールプレート平面 可動側 (Move)



固定側 (Fix)



注記

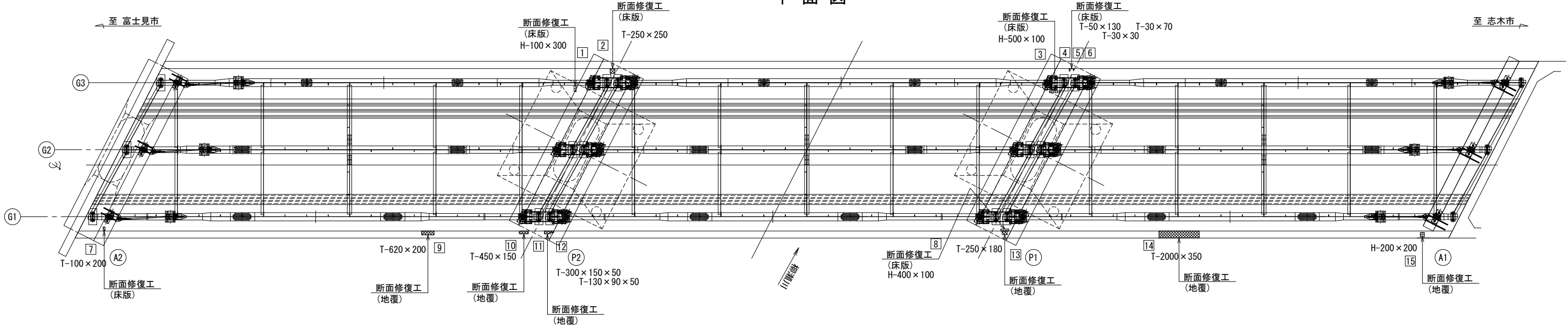
1. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
2. 本設計では錆転換型防食塗装 (NETIS-CB-170003-VR) を想定しているが、同等品以上の性能であれば監督員と協議の上、施工承諾できるものとする。
3. 旧塗膜に基準値を超える有害物質 (鉛、PCB) が含まれているため、塗膜が剥落の際は、旧塗膜の飛散防止、作業員への安全対策を施した上で施工を行うこと。
4. 部材角部は、面取りが行われていない場合は、半径2R以上の曲面仕上げを行うこと。
5. 死膜が残存しないように充分素地調整を実施した上で塗装すること。添接部、支承部は特に念入りに施工を行うこと。

〈富士見橋〉

工事名	富士見橋補修工事		
図面名	塗装塗替図 (その2)		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	4 / 10
事業者名	志 木 市		

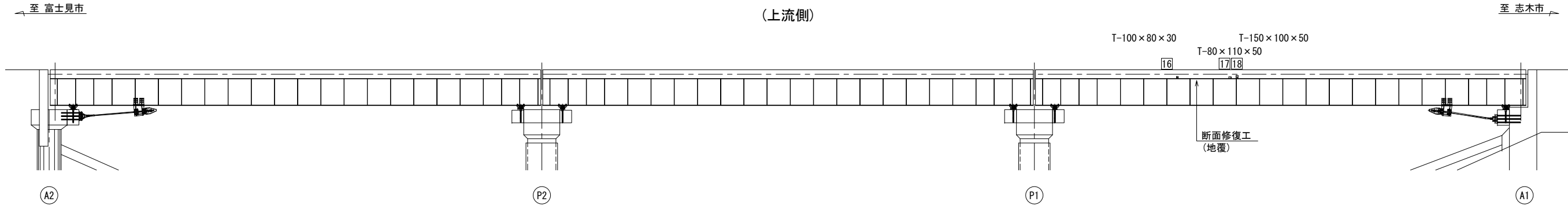
地覆、床版補修図 S=1:100

平面図



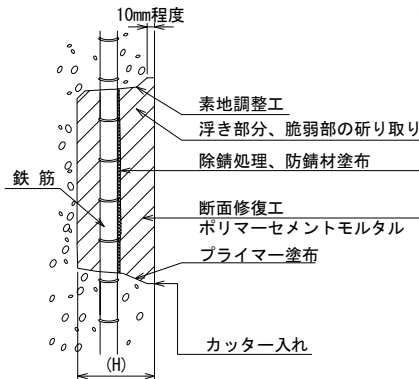
側面図

(上流側)

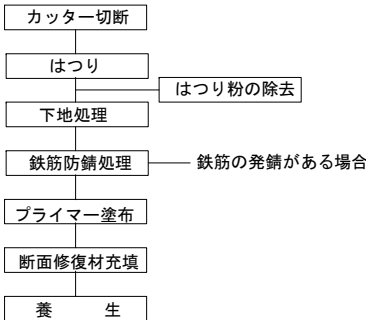


断面修復工標準図

左官工法



施工フローチャート



留意事項)

- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- 断面修復の際は、鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を完全に除去した上で防錆処理を施すこと。
- 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- かぶり厚が十分確保できない場合は、最外鉄筋径以上の補修材を盛ること。
- 断面修復工深さ(H)は「富士見橋上部工設計計算書」を基に、下表のとおり想定しているが、はつり深さは現地状況により調整すること。
- 鉄筋背面まで腐食が確認できない場合は、鉄筋背面までのはつりする必要はない。

	深さ(H) 想定
上部工	60mm

断面修復工(左官工法) 数量表

損傷番号	寸法(1箇所あたり)(m) 幅×長さ×深さ	面積 (m2)	体積 (m3)
床版			
1	0.30×0.10×0.06	0.030	0.00180
2	0.25×0.25×0.06	0.063	0.00378
3	0.10×0.50×0.06	0.050	0.00300
4	0.13×0.05×0.06	0.007	0.00042
5	0.03×0.03×0.06	0.001	0.00006
6	0.07×0.03×0.06	0.002	0.00012
7	0.20×0.10×0.06	0.020	0.00120
8	0.10×0.40×0.06	0.040	0.00240
合計		0.213	0.01278

断面修復工(左官工法) 数量表

損傷番号	寸法(1箇所あたり)(m) 幅×長さ×深さ	面積 (m2)	体積 (m3)
地覆			
9	0.20×0.62×0.06	0.124	0.00744
10	0.15×0.45×0.06	0.068	0.00408
11	0.15×0.30×0.06	0.045	0.00270
12	0.09×0.13×0.06	0.012	0.00072
13	0.18×0.25×0.06	0.045	0.00270
14	0.35×2.00×0.06	0.700	0.04200
15	0.20×0.20×0.06	0.040	0.00240
16	0.08×0.10×0.06	0.008	0.00048
17	0.11×0.08×0.06	0.009	0.00054
18	0.10×0.15×0.06	0.015	0.00090
合計		1.066	0.06396

	凡 例	補修工法
n	鉄筋露出	断面修復工(左官工法)
n	剥離	断面修復工(左官工法)

※nは、損傷番号

注記)

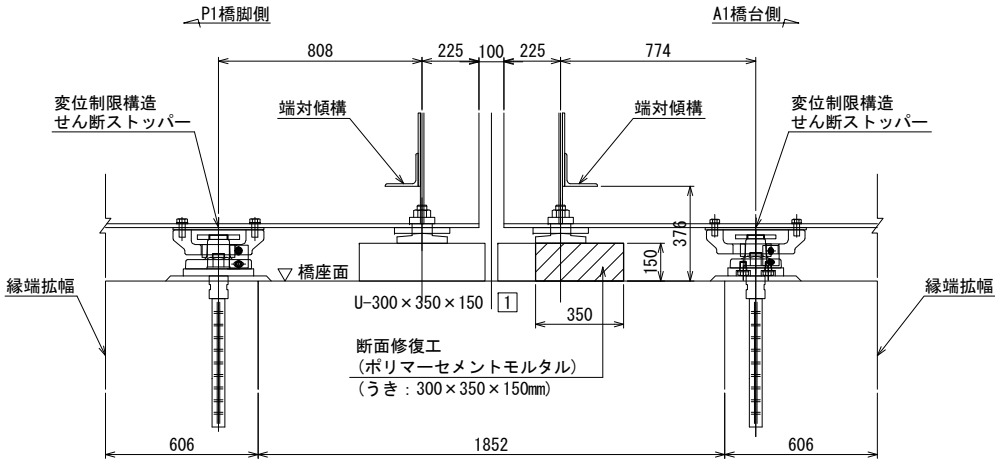
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で補修を行うこと。
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 工法に記載している「留意事項」を確認した上で、施工を行うこと。

〈富士見橋〉

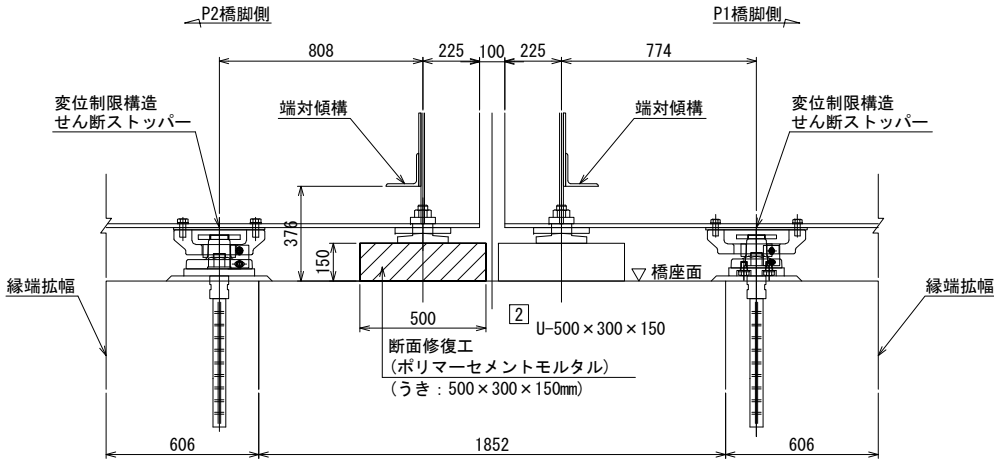
工事名	富士見橋補修工事		
図面名	地覆、床版補修図		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	1:100	図面番号	5 / 10
事業者名	志 木 市		

沓座モルタル補修図

側面図 S=1:15
(G1桁：P1橋脚)

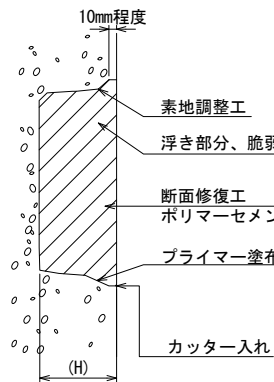


側面図 S=1:15
(G2桁：P1橋脚)

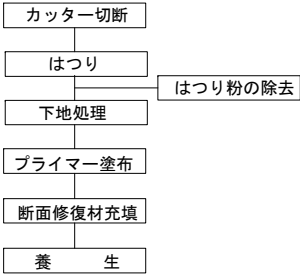


断面修復工標準図
左官工法

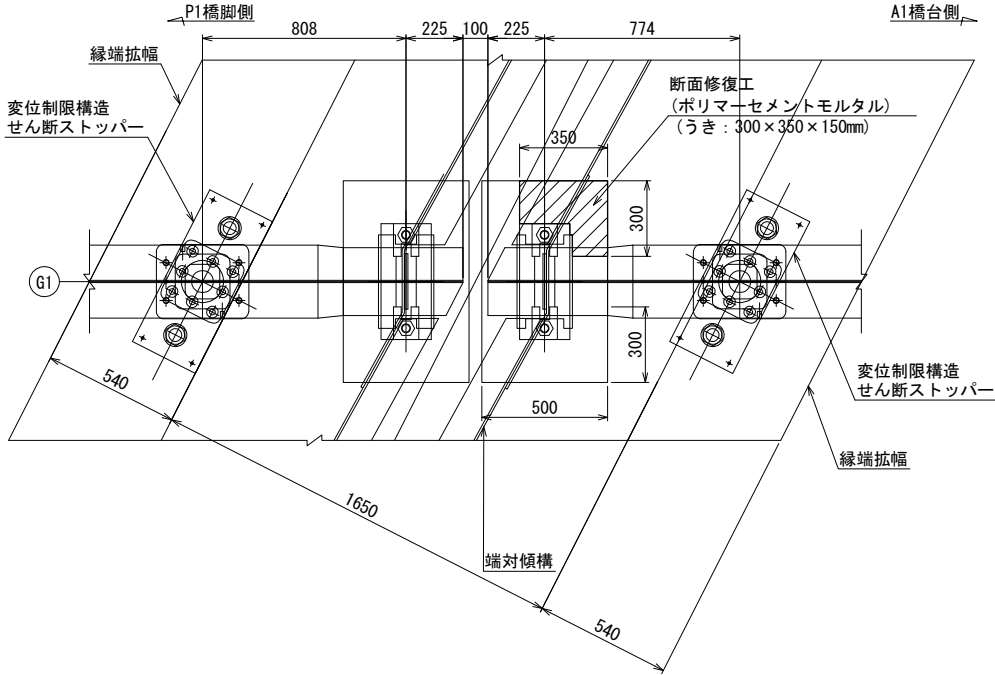
(沓座モルタルのうき)



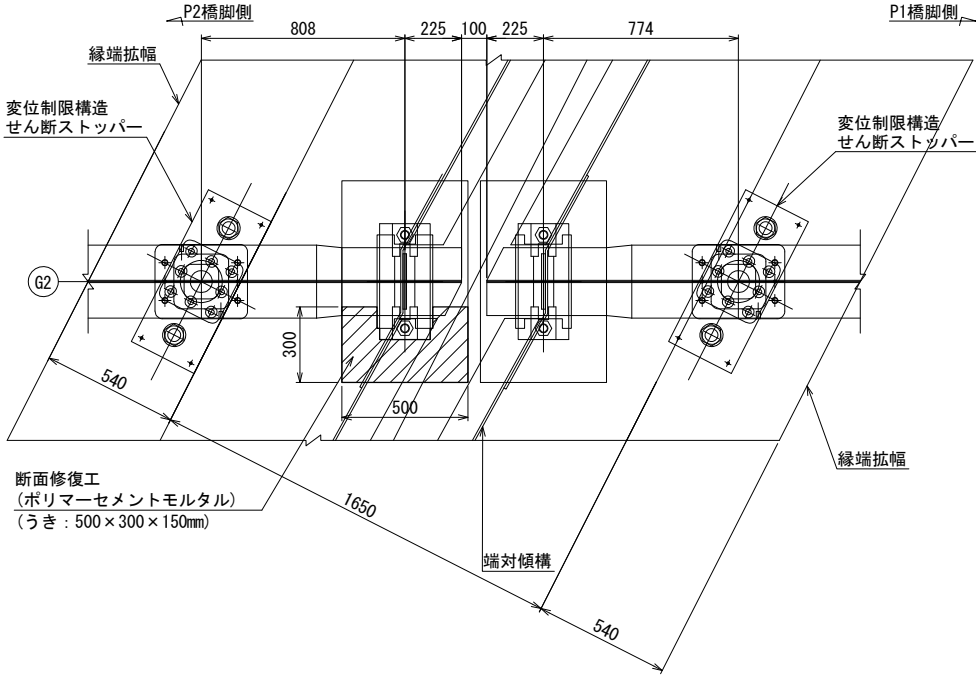
施工フローチャート



平面図 S=1:15
(G1桁：P1橋脚)



平面図 S=1:15
(G2桁：P1橋脚)



留意事項)

- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- 断面修復工深さは、現地状況により調整すること。

	高さ (H)
支承部 (沓座)	150mm

凡 例			補修工法
n	うき		断面修復工 (左官工法)

※nは、損傷番号

断面修復工 (左官工法) 数量表

損傷番号	寸法 (1箇所あたり) (m) 幅×長さ×深さ	面積 (m ²)	体積 (m ³)
沓座モルタル：G1桁【P1橋脚 (A1橋台側)】			
①	0.30×0.35×0.15	0.105	0.01575
沓座モルタル：G2桁【P1橋脚 (P2橋脚側)】			
②	0.50×0.30×0.15	0.150	0.02250
合計		0.255	0.03825

注記)

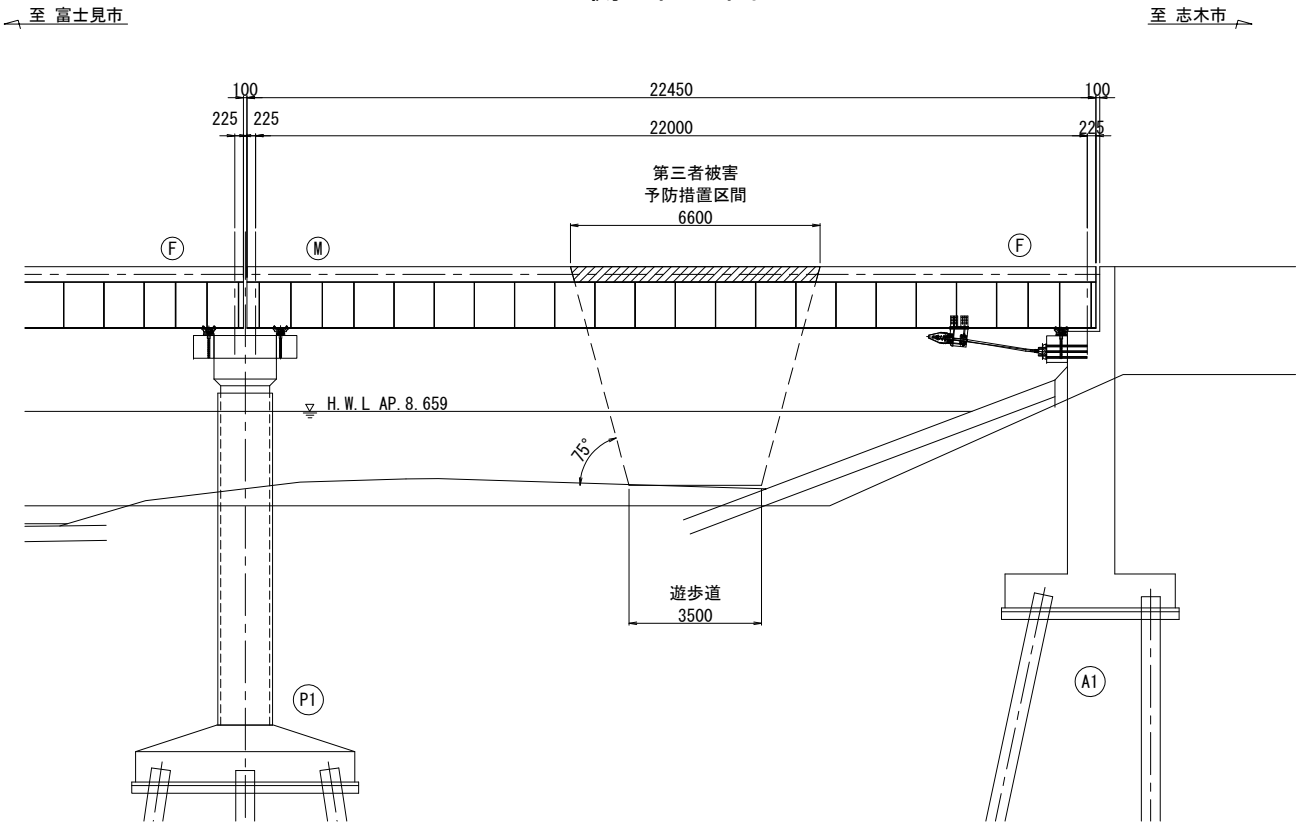
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 工法に記載している「留意事項」を確認した上で、施工を行うこと。

〈富士見橋〉

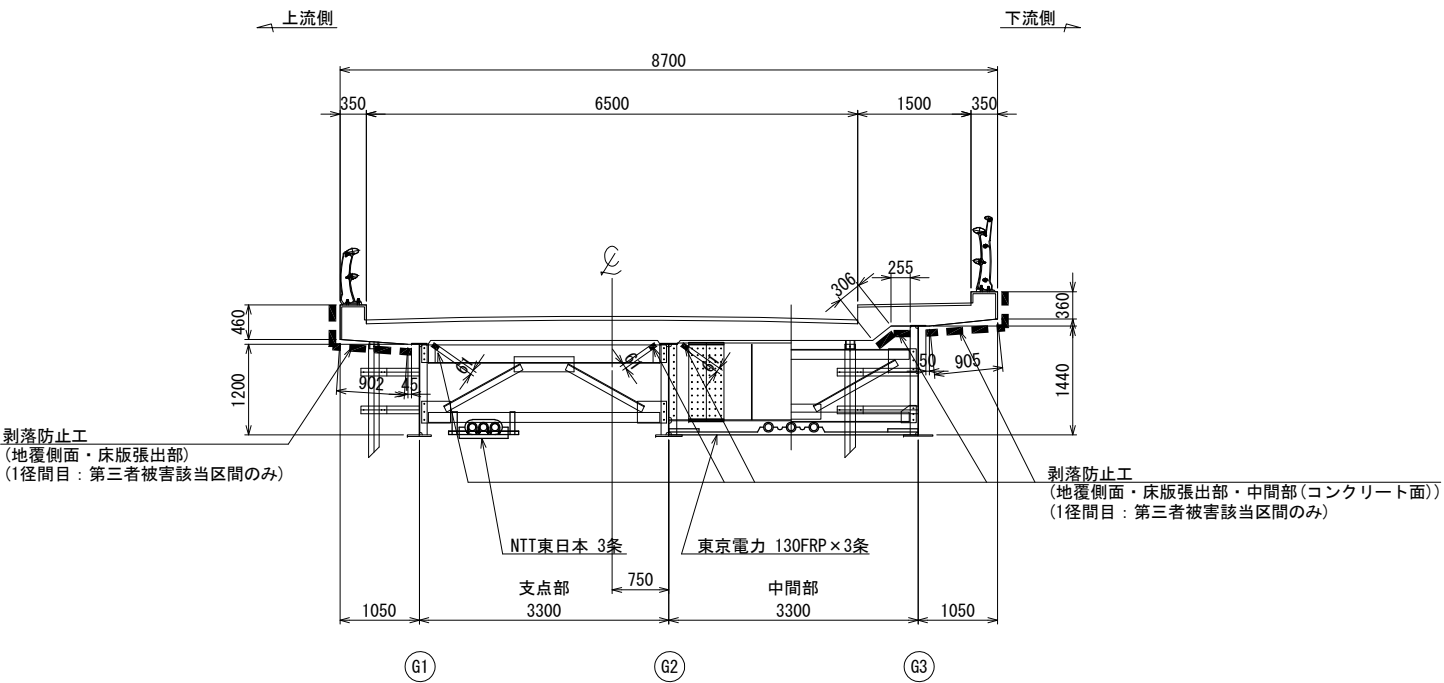
工事名	富士見橋補修工事		
図面名	沓座モルタル補修図		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	6 / 10
事業者名	志 木 市		

剥落防止工図

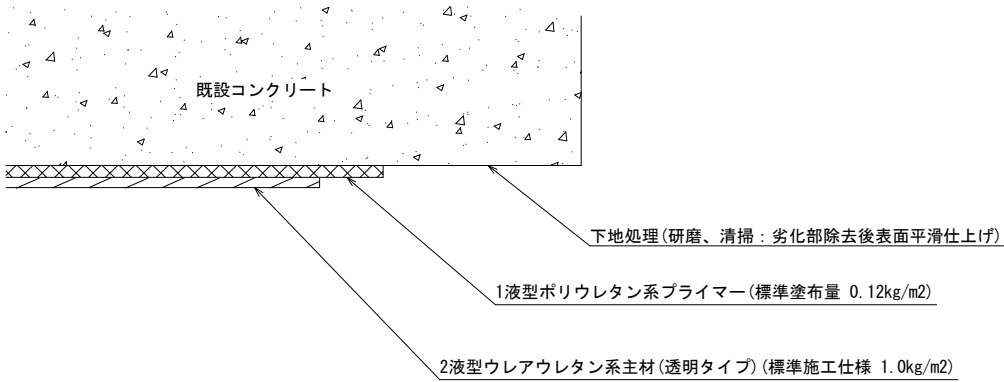
側面図 S=1:100



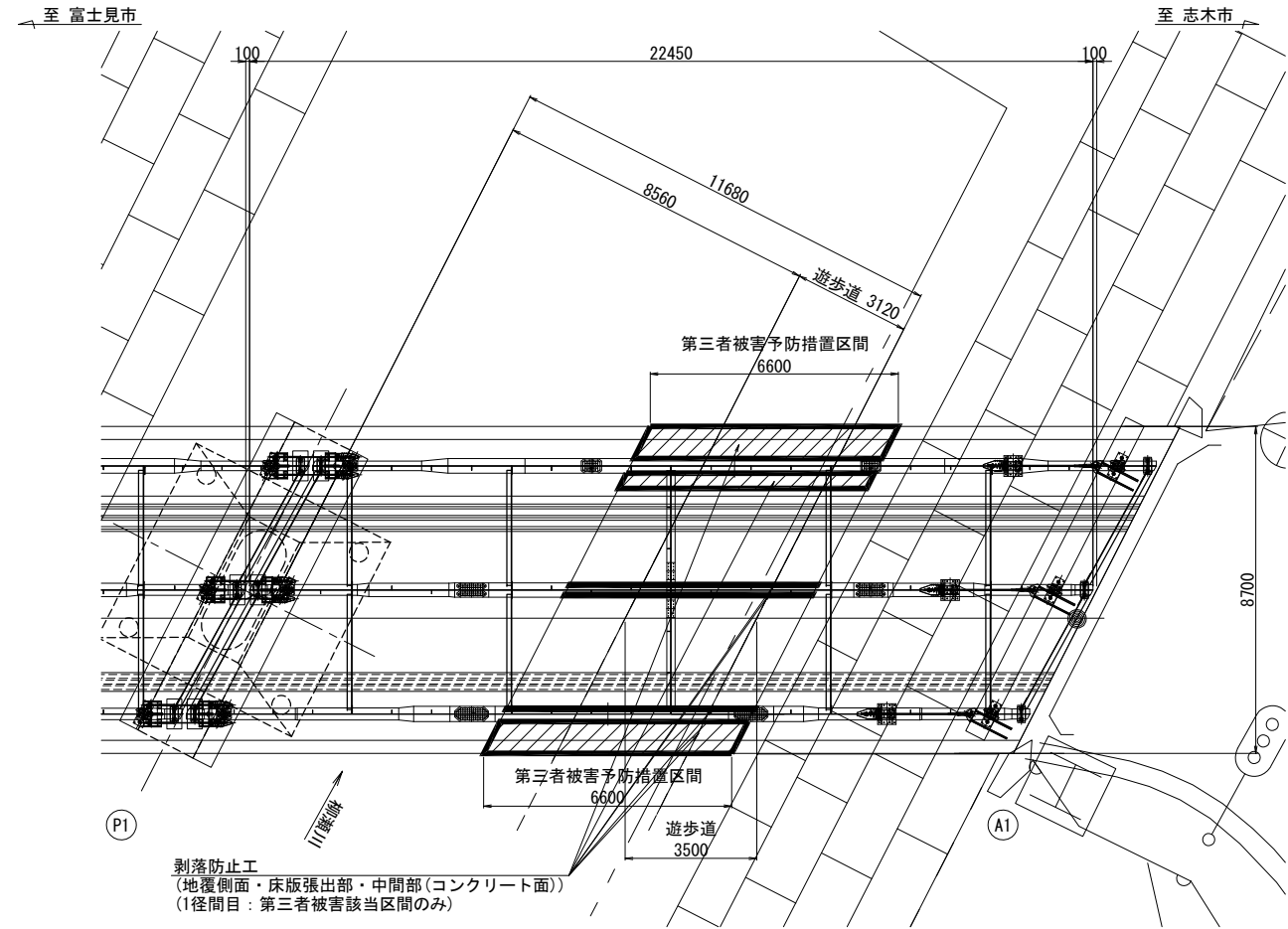
標準断面図 S=1:60



剥落防止工法詳細図



平面図 S=1:100



剥落防止工法 数量表

部材	幅 (m)	長さ (m)	箇所	面積 (m2)	備考
地覆側面	0.46	6.600	1	3.0	上流側
地覆側面	0.36	6.600	1	2.4	下流側
床版張出部	1.902 (※1)	6.600	1	12.6	
床版中間部	0.744 (※2)	6.600	1	4.9	
			合計	22.9	

※1 $\varnothing = 0.902 + 0.045 + 0.050 + 0.905 = 1.902\text{m}$
※2 $\varnothing = 0.061 \times 3\text{面} + 0.306 + 0.255 = 0.744\text{m}$

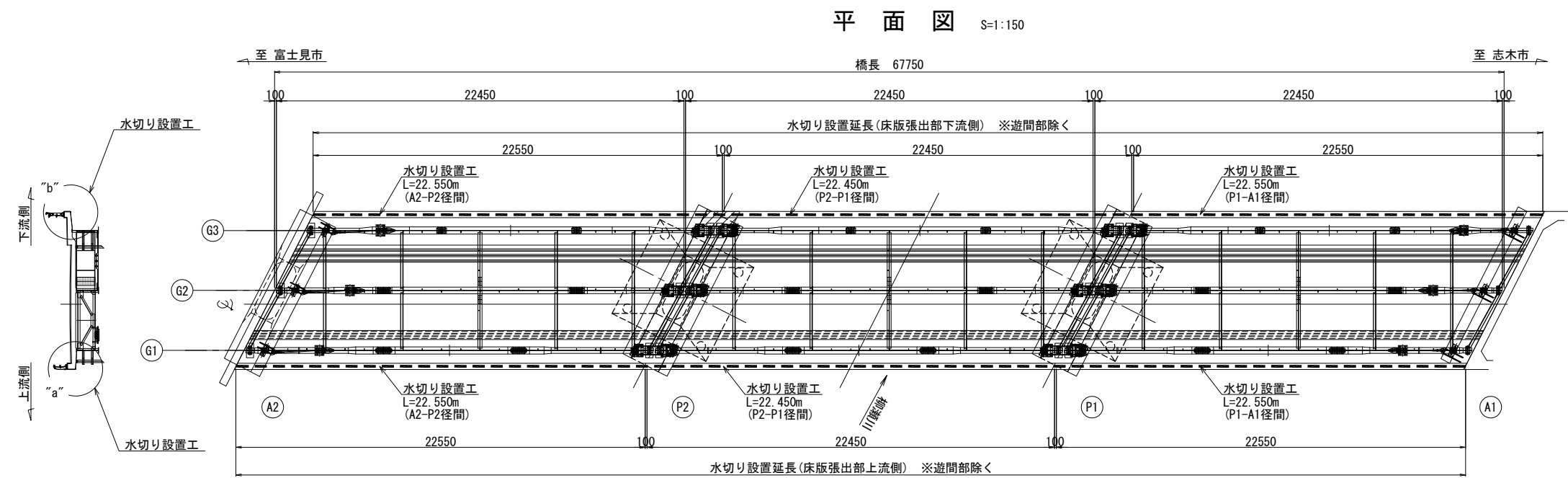
注記

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- コンクリート面の状態によって不陸が大きい場合は、ポリマーセメントモルタルで調整するか、2液型ウレアウレタン系主材の塗布量を増加させること。
- コンクリート面にひびわれがある場合は、ひびわれ補修等により補修した上で施工を行うこと。

〈富士見橋〉

工事名	富士見橋補修工事		
図面名	剥落防止工図		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	7 / 10
事業者名	志 木 市		

水切り設置図

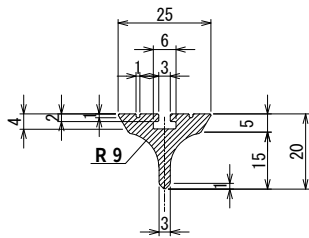


水切り設置工 S=1:3

“a”部詳細
上流側

“b”部詳細
下流側

水切り詳細 S=1:1

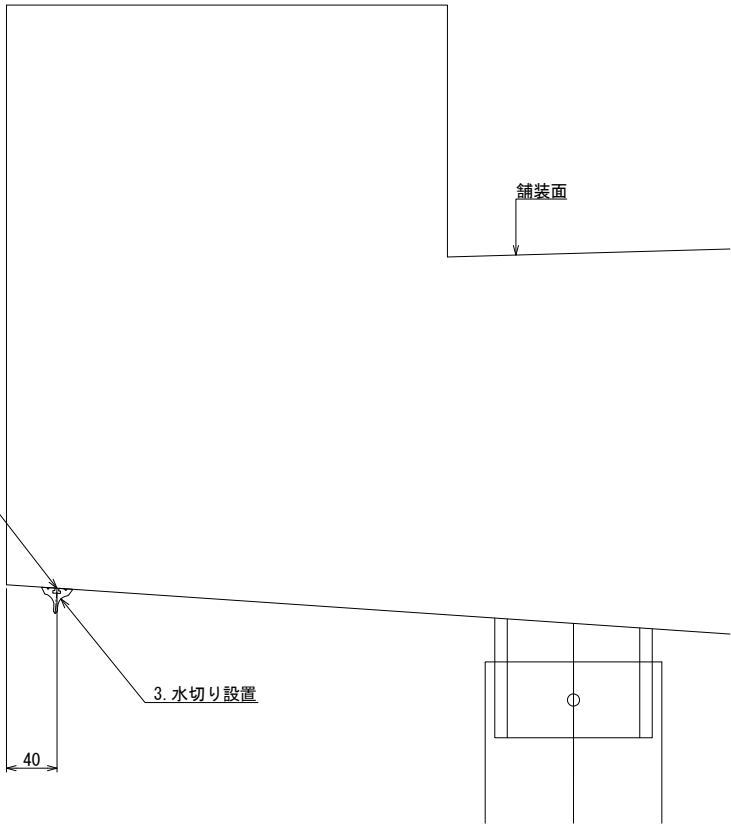


- ＜水切り仕様＞
- ・構造：独立気泡スポンジ
 - ・材質：EPDM系ゴム
 - ・色：ライトグレー
 - ・質量：80g/m

水切り設置工数量

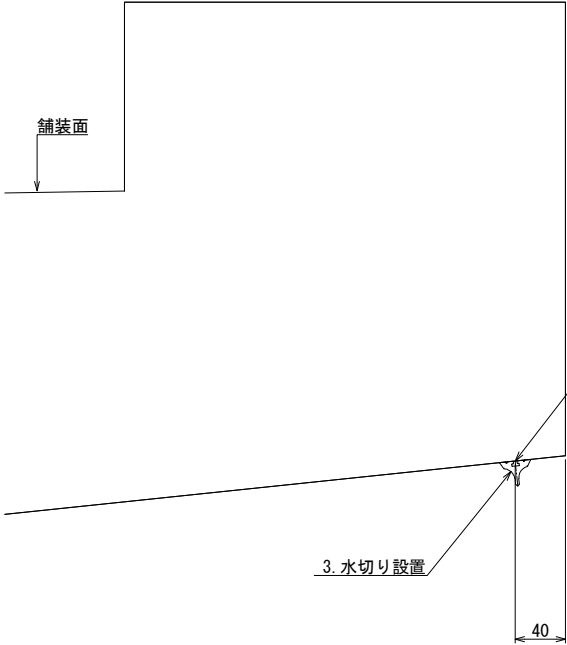
	長さ (m)	員数	数量 (m)	備考
下流側	22.550	1	22.550	A2-P2
下流側	22.450	1	22.450	P2-P1
下流側	22.550	1	22.550	P1-A1
上流側	22.550	1	22.550	A2-P2
上流側	22.450	1	22.450	P2-P1
上流側	22.550	1	22.550	P1-A1
合 計			135.1	

1. 表面処理 (ディスクサンダー, 幅30mm程度)
2. 接着剤塗布 (エポキシ樹脂系)



3. 水切り設置

1. 表面処理 (ディスクサンダー, 幅30mm程度)
2. 接着剤塗布 (エポキシ樹脂系)



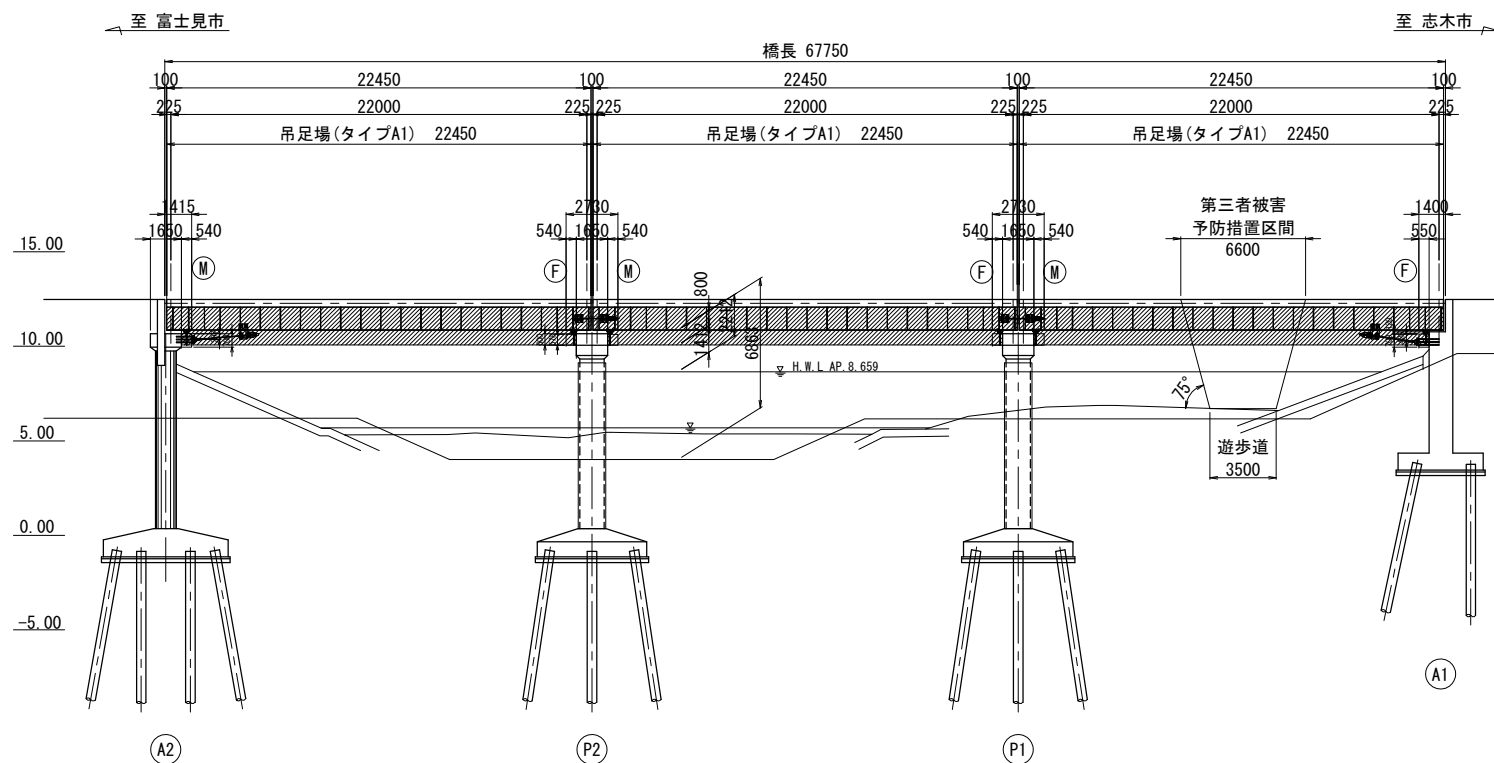
3. 水切り設置

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。

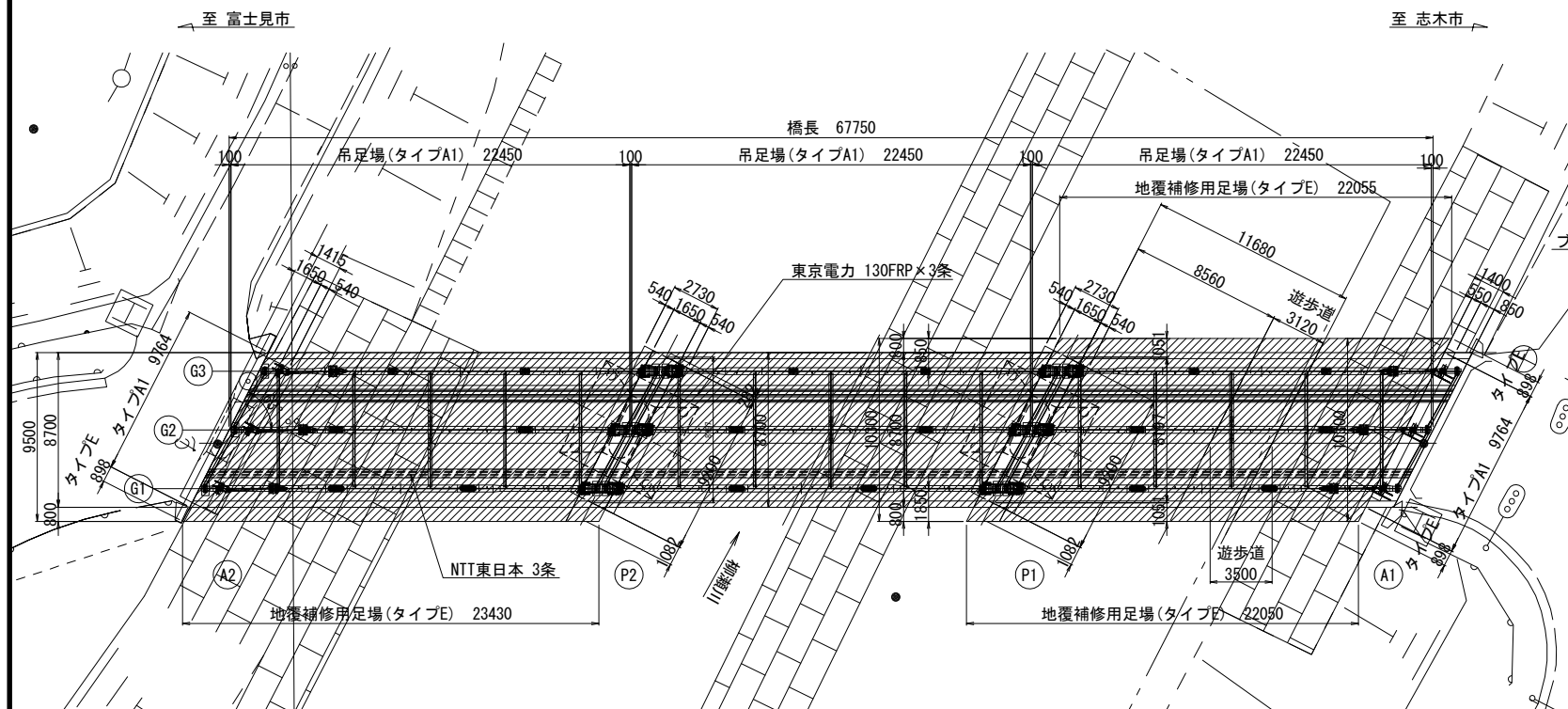
＜富士見橋＞			
工事名	富士見橋補修工事		
図面名	水切り設置図		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	8 / 10
事業者名	志 木 市		

施工計画図(参考図)(その1)

側 面 図 S=1:200



平面图 S=1:200



吊足場面積(タイプA1)

箇所	幅(m)	延長(m)	面数	面積(m2)
A2～P2	8.700	22.450	1	195.3
P2～P1	8.700	22.450	1	195.3
P1～A1	8.700	22.450	1	195.3
合 計				585.9

地覆補修用足場面積(タイプE)

箇所	幅(m)	延長(m)	面数	面積(m2)
A2～P2(上流側)	0.800	23.430	1	18.7
P1～A1(上流側,下流側)	0.800	22.050	2	35.3
合 計				54.0

ブラスト用養生シート面積

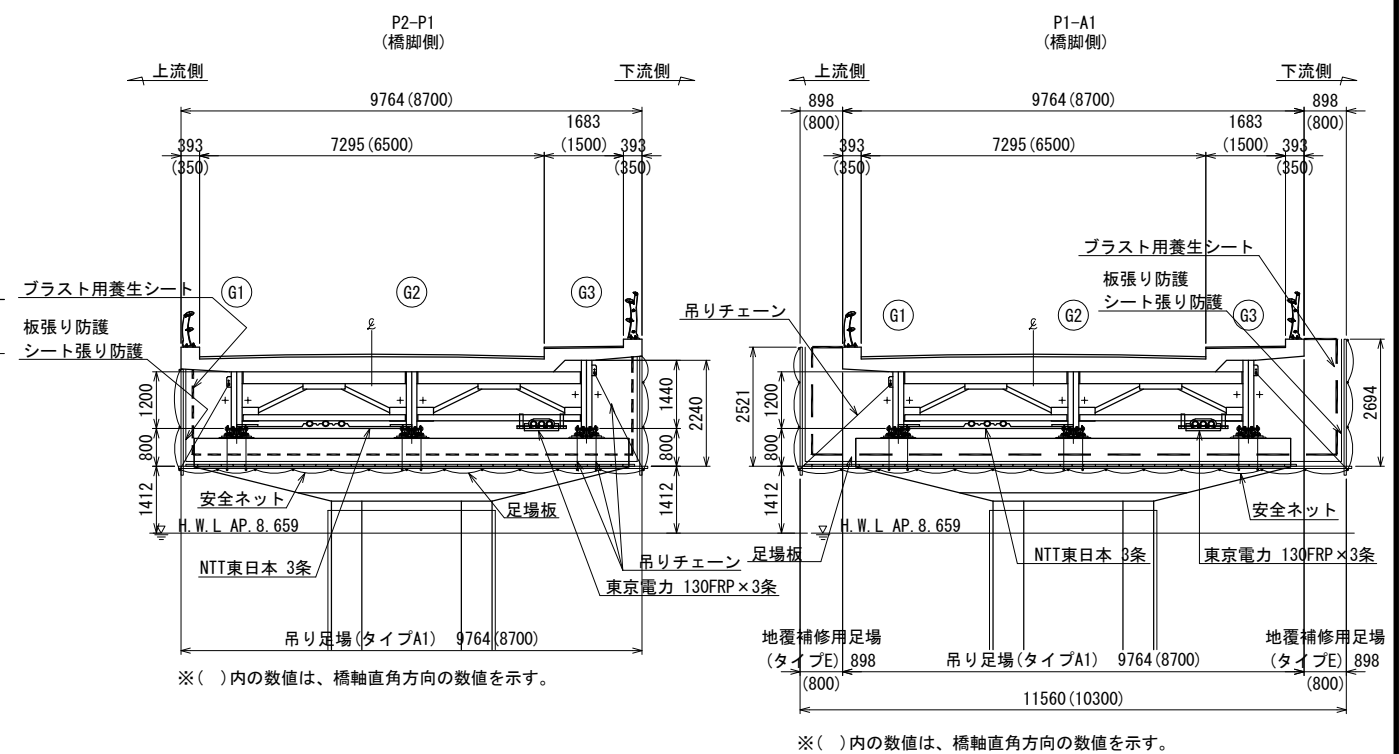
箇所	幅(m)	延長(m)	面数	面積(m2)
A2～P2	15.248(※1)	22.450	1	342.3
P2～P1	13.180(※2)	22.450	1	295.9
P1～A1	17.484(※3)	22.450	1	392.5
合 計				1030.7

※1 断面長 $l=0.898+2.521+9.500+2.329=15.248$

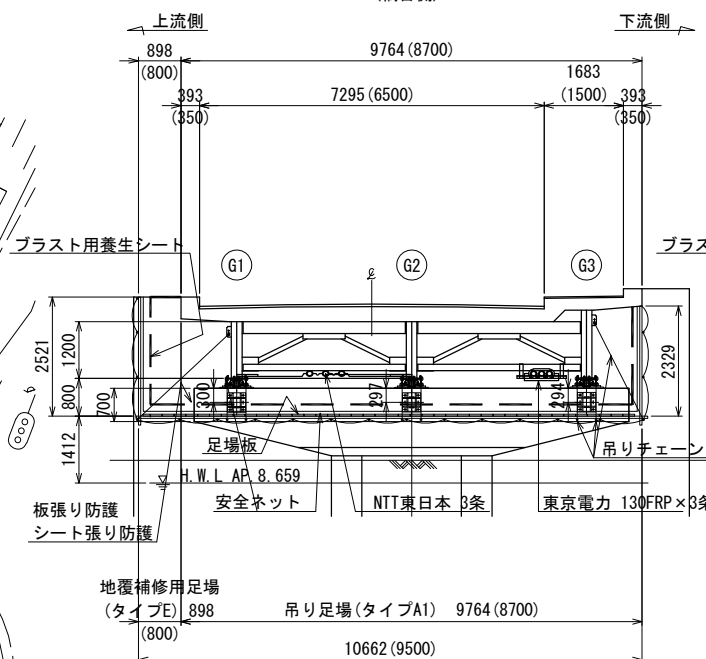
※2 断面長 $l=2.240 \times 2\text{面}+8.700=13.180\text{m}$

※3 断面長 $l = (2.694 + 0.898) \times 2\text{面} + 10.300 = 17.484$

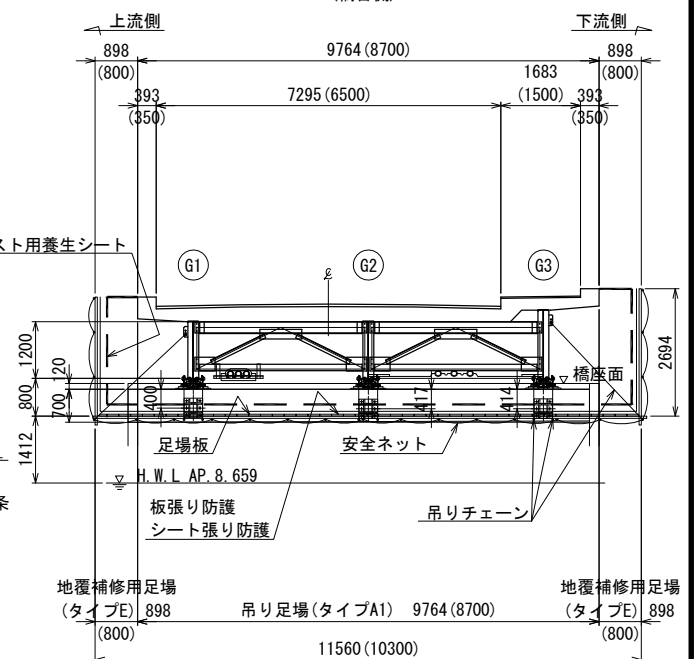
下部工断面图 S=1:8



A2-P2
(橋台側)



P1-A1
(橋台側)



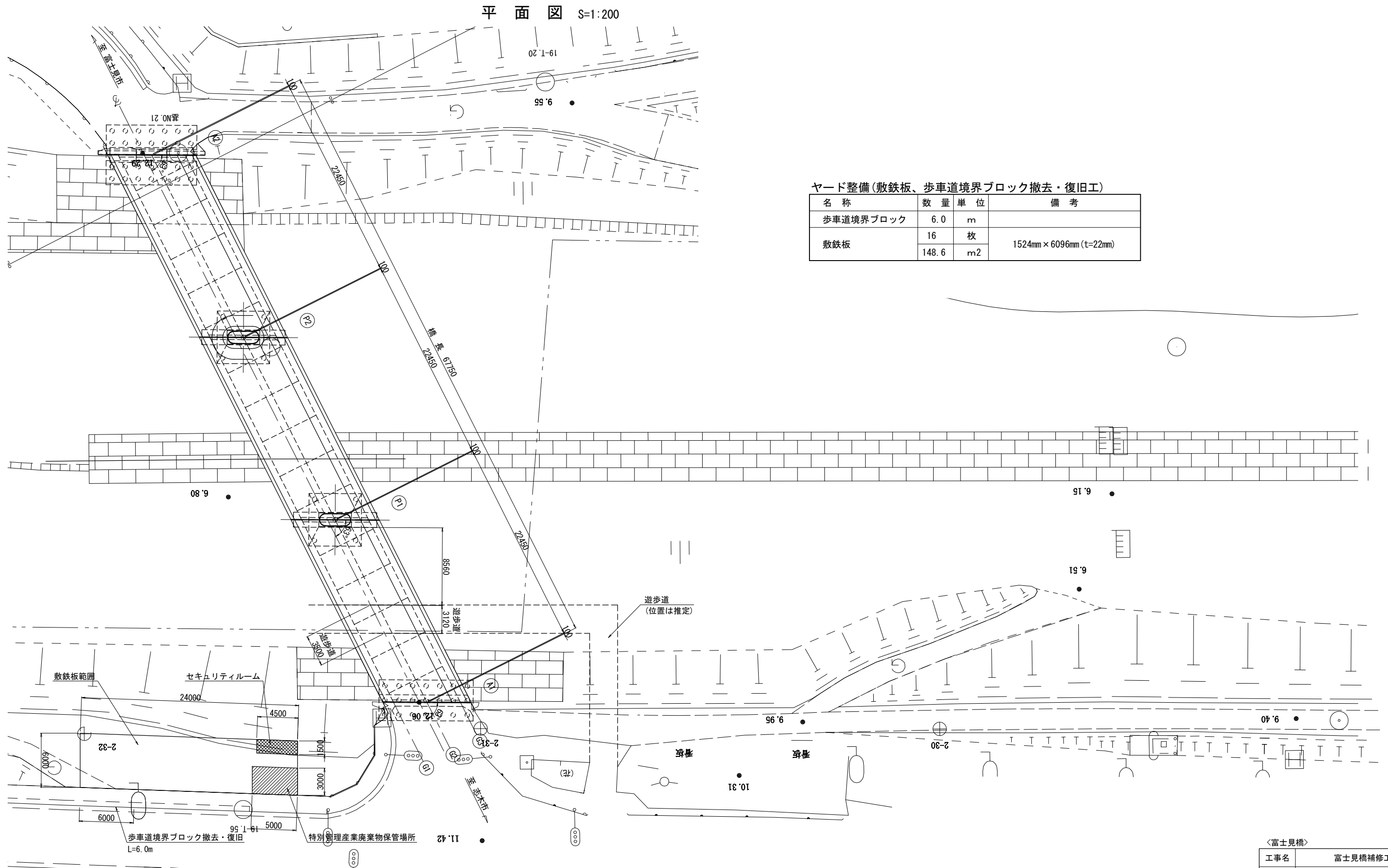
注記)

1. 足場架設の際は、必要に応じて積載荷重を検討し、安全であることを確認の上で施工にあたること。
2. 足場架設の際は、現地状況及び寸法を確認の上行うこと。
3. 足場には安全ネット及び養生シートなどの措置を行うこと。
4. 旧塗膜に基準値を超える有害物質（鉛、PCB）が含まれているため、塗膜かき落しの際は、旧塗膜の飛散防止、作業員への安全対策を施した上で施工を行うこと。
5. 基準値を超える有害物質（鉛、PCB）を含有しているため、飛散防止対策として養生シートで防護する足場計画としている。
6. 施工にあたっては、現地を確認し、必要に応じて寸法計測を実施すること。
7. 計画高水位は、過年度設計業務で推定した内容を記載している。

〈富士見橋〉

工事名	富士見橋補修工事		
図面名	施工計画図(参考図)(その1)		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	9 / 10
事業者名	志 木 市		

施工計画図(参考図)(その2)



ヤード整備(敷鉄板、歩車道境界ブロック撤去・復旧工)

名 称	数 量	単 位	備 考
歩車道境界ブロック	6.0	m	
敷鉄板	16	枚	1524mm×6096mm (t=22mm)
	148.6	m ²	

＜富士見橋＞			
工事名	富士見橋補修工事		
図面名	施工計画図(参考図)(その2)		
作成年月日	令和 7 年 8 月		
縮尺	図 示	図面番号	10 / 10
事業者名	志 木 市		